

第9章 他地域の商店街活性化策について

板橋区役所総務部職員課職員研修係長 相田治昭

大阪、大垣、名古屋の商店街を訪問し、関係者との意見交換や商店街の視察をおこなった。商店街の会長、大学の先生・学生は、自分たちのまちづくりについて熱く語ってくれた。まちづくりに対する情熱が、商店街の活性化、そして町の繁栄と活気を支えているようである。

商店街振興からまちづくりへ

これらの商店街は、道路舗装や街路灯等の基盤整備、販促活動等一般的な商店街振興策に熱心に取り組んで商店街の繁栄を築いていない。今後もこのような計画は特にないようである。

「商店街が商店街の機能を外れた活動を行なうことにより、商店街が賑わうことになる。」天神橋3丁目商店街理事長の発言であるが、大門商店街理事長も同じ考え方である。二人の考え方は、販促だけに取り組むのではなく、商店街が「自分たちのまちを創る」中心として機能することを意味している。自分たちの利益を追求するのではなく、商店街を取り巻く町の価値を創造する。新しい商店街の振興策である。

まちづくりの方法や目的は多様である。今回は、環境問題、歴史・文化の保存、市民活動の活発化が目的になっていた。町の固有の歴史や文化、眠っている資源等を掘り下げ、新しいまちの価値を見つけてから本当のまちづくりが始まる。そのことが商店街の繁栄にもつながっていく。

1. ネットワーク

商店街の振興、まちづくりは、商店街は単独・独力で進めてはいない。まちづくりのプロセスに多くの住民が参加している。大垣では、地元の岐阜経済大学の先生と学生の全面的なバックアップを受けている。学生は商店街の空き店舗に泊まり込んで友達たちと熱心に商店街について語り合っている。天神橋3丁目商店街では「町街(まちがい)トラスト」で文化人やマスコミなどのサポートを受けている。大門商店街では、商店街にNPOの事務所が進出するなど「エコ」を媒介としてネットワークが広がりつつある。

もう、商店街だけが頑張ってもうまくいかないようである。まちづくりの情報を発信すれば、情報や人が集まってくる。そこには知恵と活気がうまれてくる。イベント会社やシンクタンクは不要である。情報は自己増殖的に価値を生み出す。

また、大垣のように、大学と連携して、知識や情報を有効に活用して、まちづくりを始めることも効果的である。

2. リーダーシップ

まちづくりの成功は、強い個性と情熱をもっているリーダーの力量に依存している傾向がある。価値観の多様化によりリーダーの資質としては、決定タイプやまとめタイプ等様々なタイプがある。要は、みんなをうまく目的地に連れて行くこと、なるべくなら、脱落者や造反者が少ないことがベストである。

天神橋 3 丁目商店街の理事長は強い個性で引っ張っていくタイプ。大門商店街は温和型でまとめていくタイプ。それぞれの町の個性のように、リーダーのあり方もバラエティに富んでいる。

では、リーダーがいなければ、どうするか。商店街以外からまちづくりに情熱を持っている人に来てもらえばいい。大垣では、岐阜経済大学の先生がまちづくりのリーダーとして活躍している。

まちづくりに成功したところに、必ず卓越したリーダーが活躍している。リーダーを見つける、育てる、外部と連携する、様々な方法の中で町にフィットする人がリーダーとして成長する。

3. 明確な戦略の設定

まちづくりの切り口は明確でなければならない。天神橋 3 丁目商店街は「歴史と文化」、大門商店街は「エコ」、大垣は「市民の自立」と明確な戦略がある。まちづくりの過程で、いろいろな道が生まれるが、基本的な戦略からは逸脱していない。

情報が氾濫している中で、戦略が明確な情報はアンテナを張っている人たちにとってキャッチしやすい。情報のコンテンツが勝負を決める。

4. 一歩でも進む姿勢

商店の人々は商品が売れない、人通りが少ない等深刻な危機意識を抱えている。で

も、お店が繁盛し、商店街が賑わう方策が見つからない。時間が経過すれば空き店舗は増え、人通りも遠ざかる。大門商店街の理事長はこのような歯ぎしりするような状況にあって「何もしないよりは、何かをしよう」と立ち上がった。

商店街は危機意識を抱えている状況から、一步でも早く脱却する姿勢と行動が求められている。

商店街の活性化策について

【天神橋3丁目商店街】

1. 概要

大阪天満宮の門前町として始まった歴史と伝統のある商業地にあり、天満宮を起点に南北に直線に伸びている。天神1丁目から7丁目まで天神橋筋商店街の全長は約3キロで「日本一長い商店街」と呼ばれている。3丁目商店街は天満宮よりの中央部に位置する。

2. 商店街の活動

(1) 町街(まちまち)トラスト

天神・天満の町を愛する難波の文化人や有識者、企業、マスコミと地元住民・店主が中心になって、この伝統と大阪らしさのある街を守り、育て、多くの人に街の良さを知ってもらいたいという思いのもとに発足したサポート組織。この商店街が中心となっている。

(2) てんさん MONO-GOTO 館

振興組合が運営するレンタルスペースである。空き店舗対策として平成10年にオープンした。

(3) 一日丁稚体験

平成11年に修学旅行生を商人の丁稚体験として受け入れた。それから非常に増加して、現在ではJTBと契約している。小中学校の1日体験の申し込みもある。

(4) エコ活動

滋賀県の近江八幡の人と知り合い、琵琶湖の葦をボランティアで刈り取っている。それで、紙やエコ・バックを作っている。

(5) 満歩状

天神橋筋商店街は南北2.6キロ、歩くと1万歩。大阪天満宮にたどり着けば、巫

女さんから「満歩状」がいただける。

【新大門商店街】

1. 概要

名古屋駅より 1.5 キロ西へいった中村区の中心部に位置していて、昭和 48 年に新大門発展会として発足し、昭和 54 年に新大門商店街振興組合を設立。

南北に 500m、東西に 500m の範囲に 150 店舗の商店、事業所が加盟。

2. 商店街の活動

(1) リサイクル・ステーション

平成 11 年 1 月にとりいれる。全国で始めて。毎月第 2・4 木曜日の午前 10 時から午後 2 時まで 4 時間、商店街スタッフのボランティアにより 12 分類のリサイクル回収を実施。

(2) 大門商店街情報案内システム大門ナビ

商店街の 4 ヲ所にパソコンを設置、商店街加盟店の店舗と事業案内の情報をタッチパネルディスプレイによって案内する。

(3) エコ・コイン

リサイクルステーションに協力した人、協力参加店において簡易包装、お買い物袋で買い物した人にエコ・コインをあげる。そのコインをナビに投入すると、ラッキーチケット(例えば、餃子 1 人前サービス、20% オフ券) が当たる。また、10 枚集めてエコせっけんと交換、1 エココイン=10 円として参加店で買い物ができる。

【大垣市マイスター倶楽部】

1. 概要

岐阜経済大学、大垣駅前商店街振興組合、大垣地域産業情報研究協議会の共同研究室である。1998 年 10 月、大垣商工会議所による空き店舗対策モデル事業の一環として始まった。

岐阜経済大学の学生 80 名が、バリアフリー体験調査による市街地トイレマップの作成など学生独自の様々な調査研究やゼミナール活動、駅前商店街との共同イベントやミニ FM を実施している。

飲食店マップが好評。市内の短大の漫画科の学生がイラストを書いて、市民に提供している。

2. その他の空き店舗対策

(1) 町の駅

2階建ての建物で、1階には、3店が入っている。2階が市民交流の拠点となる。

(2) 農家の店

高齢者の利便性に対処するために、生産農家と連携して日常的な農作物を販売している。3つの農家が販売している。また、学生がかすが村から委託されて、梅干し、石鹼、薬草などを販売している。